

神山学生部長壮行挨拶 2001年3月30日

共通教育主管 奥田一雄

神山正弘先生は平成11年度から学生部長に就任され、以来2年間にわたってその激務を果たされてきました。

神山先生が学生部長に就任された途端、卒業判定を巡る問題を解決するという大変なお仕事から始まり、前途多難を予感させました。

しかしながら、神山先生はそれにもめげず精力的に幾多の課題に取り組み、他の大学に先駆けて本学において次々と形あるものを作ってこられました。

学生課関係では、共通教育の担当体制を含む10年度教育改革の実質化、それから教育3法の改訂に伴って、キャップ制、早期卒業に関する学則改正、さらには資格教育プログラムの立ち上げ、また、成績評価のありかたの議論などに取り組みられました。

13年度の学部履修案内を見ますと、本学教育課程についての共通の内容が盛り込まれました。

入試課関係では、入学試験実施で起こった色々な問題にも適切に対処されました。

厚生課関係では、留学生倍増計画に見られますような留学生関係、また寮関係の課題に取り組み、学生のための学生部へ変身するという強いご意志が感じられました。

さらに、本学の組織機構改革にも精力的に取り組み、13年度から施行される学則改正、全学の委員会体制の構築などについて主体的にリードされてこられました。

この他にも、私が拾い上げなかった多数の顕著な足跡を残されてきたと思います。

神山学生部長は時には強面で、なかなか近づきがたいところがある反面、大変人懐っこくて中身はえっと思っただけほど単純なところもあります。

大学、特に地方国立大学を取り巻く状況がいよいよ厳しくなる時に、今度は本学副学長に就任される由、ますますご活躍されることと推察いたします。

副学長になられましても、私達学生部は高知大学の発展のために努力し、協力を惜しまないでしょう。

神山先生、この2年間、本当にお疲れさまでした。